小學脩身課書

南摩綱紀編

二

K110.1
112
2

南摩綱紀編

小學脩身課書

明治十五年四月
廿五日版權免許

中外堂藏版

東京帝國大學圖書之印

小學修身課書卷二

初等二年前期

南摩綱紀編

○志ある者は。事竟に成る。光武

○志立たざれば。天下に成るべきの事なし。王陽明

○志を立つるは。恥を知るを要とす。言志錄

○精神一たび到れば。何事か成らざらん。朱熹

○天を怨まず。人を尤めず。論語

○人遠き慮なければ。必ず近き憂あり。同

○過ちては。改むるを憚ること勿れ。同

○過ちて改めざる。これを過ちといふ。同

○人惰りて侈れば貧し。力めて儉なれば富む。管子

○富ては。貧き者を忘るべからず。貴くては。賤しき者を侮るべからず。初學訓

○和げば仇なく。忍べば辱なし。省心錄

○人の過ちを知るとも。妄に言ふべからず。大和俗訓

○人の毀譽はよく察すべし。漫に信ずべからず。同

○喜ぶ時の言は。多く信を失ふ。怒る時の言は。多く體を失ふ。傳家寶

○名を成すは。窮苦の日にあり。事を敗るは。得意の時に因る。同

○禍福は門なし。唯人の招く所なり。左傳

○千丈の堤は。螻蟻の穴より潰ゆ。韓非子

○朝早く起くるは。家の榮ゆる兆

ホり。晩く起くるは。家の衰ふる基なり。大和俗訓

○白圭の玷は。尚ほ磨くべし。此の言の玷は。爲むべからず。詩經

○知者は言を愼み。行を愼みて。身の福をなす。賈誼新書

○愚者は易く言ひ。易く行ふて。身の菑をなす。同

○少成は天性の如く。習慣は自然の如し。同

○德は博く人を愛するより高きはなし。同

○善は小にして益なしといふべからず。同

○不善は小にして傷なしといふべからず。同

○知ることは難にあらず。行ふことは難し。書經

○天の作せる孽は。尚ほ違るべし。自ら作せる孽は。逭るべからず。同

○毫釐の差は。千里の差となる。故に君子は始を慎む。賈誼新書

○人の能くする所を嫉む勿れ。人の能くせざる所を形はす勿れ。畜德錄

○人の不善をなすは。恒に人の知るを畏れて。神の知るを畏れず。同

○陰德ある者は。必ず陽報あり。陰行ある者は。必ず昭名あり。韓詩外傳

○人を待つは。嚴に過ぐべからず。これ人を安んずるの法なり。省僭錄

○身を行ふは。嚴にせざるべからず。これ己を治むるの法なり。同

○衣冠を正くし。瞻視を尊くす。禮記

○其身正しければ。令せずして行はる。其身正しからざれば。令すと雖も行はれず。論語

○寶貨は之を用ひて盡るあり。忠孝は之を享けて窮りなし。省心雜言

○人一たび遊惰の念を生すれば。其心蕩して。學退く。省僭錄

○虛を持ても。盈てるを執るが如く。虛に入りても。人あるが如くす。禮記

○居處は恭しく。事を爲すい敬み。人に交るには忠を盡す。論語

○古人の言を易くせざるは。躬の及ばざるを恥づればなり。同

○人に當るに口給を以てすれば。屢〻人に憎まる。同

○心莊かれば體舒び。心肅なれば容敬しむ。禮記

○志を立つるは最も高きを要す。これ學をなす緊要のことなり。畜德錄

○人の心は本廣大なれども。一の私心あれば。狹小になるなり。同

○僅に義に志せば。君子の路に入り。少しく利に志せば。小人の路に

入る。性理字義

○人安重なれば。學堅固なり。近思錄

○君子は敬を主として其内を直くし。義を守りて。其外を方にす。同

○少くして勤苦せざれば。老て必ず艱辛あり。省心雜言

○少くして能く勞を服すれば。老て必ず安逸なり。同

○窓壁几案。及び文字の間には。字を書くべからず。童蒙須知

○身體は寛慢にすべからず。寛慢なれば放肆にして。端嚴ならず。同

○喧鬨爭鬪の處は。近づくべからず。無益の事は。爲すべからず。五種遺規

○己を責る者は。人の善を成すべし。人を責る者は。己の惡を長ず。同

○小人を防くの道は。己を正くするを先とす。近思錄

○己を屈する者は。よく衆に處る。勝を好む者は。必ず敵に遇ふ。省心雜言

○勝を好むは。人の大病なり。讀書錄

○勝を好む者は。必ず爭ふ。榮を貪る者は。必ず辱めらる。省心雜言

○患は忽にする所より生し。禍は細微より發す。後漢書

○人の聞くこと無きを欲せば。言ふこと無きに若くはなし。枚乘

○人の知ること無きを欲せば。爲

すこと無きに若くはなし。同

○人を責る者は。交を全くせず。自ら恕する者は。過を改めず。省心雜言

○春風を以て人に接し。秋霜を以て自ら肅む。言志後錄

○寧ろ人我に負くも。我人に負く毋れ。同

○事を慮るは。周詳なるべし。事を處するは。易簡なるを要す。言志錄

○事を作すい。天に事ふるの心あるべし。人に示すの念あるべからず。同

○心を養ふは。欲を寡くするより善きはなし。孟子

○實心ならざれば事を成さず。虛心ならざれば事を知らず。五種遺規

○世間第一の好事は難を救ひ貧を憐むに如くはなし。同

○己の分を知りて後に足ることを知る。言志錄

○大事を處する者は勞と怨とを辭せず。五種遺規

○舉止節を失はざれば貴とからざるも富と壽を得べし。同

○喜怒色に形はさざれば名を成さざるも大功を立つべし。同

○倫理を正くし恩義を篤くするは家人の道なり。近思錄

○心を平にし。氣を和ぐるは。これ身を養ひ。德を養ふなり。愼思錄

○禍は多言より大なるはなし。文中子

○少言沈默は尤も善し。讀書錄

○話の多きは。話の少きに如かず。話の少きは話の好きに如かず。五種遺規

○禍は口より出て。病は口より入る。故に言語を慎み。飲食を節にすべし。要覽

○我れ恩を人に施したるは。忘るべし。我れ惠を人に受けたるは。忘るべからず。言志耋錄

○人の私語を見ば。耳を傾けて竊聽すること勿れ。五種遺規

○人の私室に入りては。目を側たてて。旁觀すること勿れ。同

○小人を待つは寛なるべく。小人を防くは嚴なるべし。同

○君子は其言を恥ぢて。其行を過ごす。論語

○學問の道は他なし。其放心を求むるのみ。孟子

○君子の學は。必ず日に新なり。日に新なる者は。日に進む。程子

○人山に躓かずして。垤に躓く。人皆小害を輕んじ。微事を易りて。悔多し。淮南子

○君子の交は水の如く。小人の交

は醴の如し。禮記

○父母兄長の教誡は。首を垂れてこれを聞き。議論すべからず。朱熹

○人を犯さざるゝ易く。人に犯されて。報いざるは難し。大和俗訓

○道は近し。と雖も。行かざれば至らず。事ゝ小なりと雖も。爲さざれば成らず。韓詩外傳

○善人を見てこれに倣ひ。不善人を見てこれを改む。皆我が師なり。傳家寶

○人の富めるを見て親まず。貧きを見て疎せざるは。真の大丈夫なり。願體集

○人の富めるを見て進み。貧きを見て退くは。眞の小人なり。同

○善にして。人の見んことを欲るは。眞の善にあらず。朱熹

○惡にして。人の知らざらんことを欲するハ。眞の大惡あり。同

○冨貴にして人に驕るは。固より善からず。學問して人に驕るも。其害細ならず。程子

○誠は妄語せざるより始む。司馬光

○口に信せて妄に談ずる者ハ。風狂を病みて。自ら覺へざるが如し。讀書錄

○古語に曰く。宴安は鴆毒と。此言

深く省るべし。同

○人を待つに。不肖を以てすれば。愚者と雖も甘んぜず。習是編

○非禮を以て人を處すれば。賤者と雖も必ず怨む。同

○人と約することあらば。信を失ふべからず。一たび信を失いば。人

ふあらずと思ふべし。大和俗訓

○心は水の源の如し。源清ければ流清し。心正しければ事正し。讀書錄

○萬事の治まらざるは。其止るべき所を失へばなり。同

○止まれば。靜一にして精明なり。同

○人心其動靜の時を失ふは。皆其止りを得ざるなり。同

○窄き小路を過ぐる時は。一歩を讓りて。先づ人を行かしむべし。願體集

○人を譏れば。人も亦我れを譏る。故に人を譏るゝは。是れ自ら譏るなり。大和俗訓

○君子は人の善を揚げて。人の惡を隱し。人の長ずる所を取りて。短かる所を言はず。同

○人を譏るは輕薄なり。唯德を失ふのみならず亦我が身を失ふ。傳家寶

○小人を遠くるに。惡まずして嚴なるは。篤敬を以て。自ら修むるに

あり。讀書錄

○己の是を說く者は。其心粗にして。氣浮べるなり。傳家寶

○人と語る時。人に其長ずる所を說かしむべし。我に益あり。言志錄

○身體放肆にして。端嚴ならざれば。人に輕賤せらる。童蒙須知

○鄉里人物の長短を論じ。鄙俚無益の談を爲すべからず。五種遺規

○人の惡を稱する者を惡み。下流に居て上を訕る者を惡む。論語

○人を傷るの言は。矛戟より甚し。況んや紙筆に形をに於てをや。荀子

○衣服を脫せば。齊整して箱に納

れ。散亂すべからず。童蒙須知

○垢つきたる衣服は。屢〻洗澣し。清潔にするを要す。同

○晝著たる衣服は。夜臥に必ず更むべし。蚤虱おく。又敝壞せず。同

○子弟たる者は。常に聲を低し。氣を下し。語言を詳緩にすべし。高言諠鬨すべからず。同

○人の過を諫むるは。誠あまり有りて。辭の足らざるを善とす。大和俗訓

○分に過きて。福を求むれば。反て禍を招ぐ。傳家寶

○足ることを知る者は。身貧しと雖も心富む。同

○得ることを貪る者は。身富むと雖も心貧し。同

○世に虚言多し。これを信じて人に語れは我も亦虚言の責を免れず。大和俗訓

○人誰か過ちなからん。過ちてよく改むれば。善これより大なるはなし。左傳

○善を爲すは易く。善を爲して。其名を求めざるは難し。大和俗訓

○天下の難事は。必ず易きに作り。天下の大事い。必ず細きに作る。老子

○信は心に誠あるより。心に誠あれば。必ず言行の上に著はる。五常訓

開き不良

○心の信實なるは萬事の基にして人に交るの道なり。同

小學修身課書卷二終

明治十五年四月廿五日版權免許
明治十八年四月九日四刻御届
明治十八年四月　出版發賣

編輯人　青森縣士族　南摩綱紀
出版人　東京府平民　麹町區富士見町二丁目卅七番地　栁河梅次郎　日本橋區本町二丁目十番地

書肆　製本發賣所　佐賀縣下佐賀郡白山町九十三番地　吉田庄藏

小學脩身課書

南摩綱紀編

三

K110.1
113
3